

コロナ禍を経て見えたオーストラリアの可能性 ～クレアシドニー事務所での約2年間の研修を振り返って～

一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所 研修生 根木 勇也

1. コロナ禍で見えたオーストラリアの強み

2020年3月11日にWHOからコロナのパンデミックが宣言された後、オーストラリア（以下「豪州」という。）では同月20日に国境を封鎖、その後、各州政府でも感染拡大状況に応じて独自にロックダウンを実施するなど、緊急時における政府の判断力とスピード感を内外に示した。

コロナ禍でDXも進んだ。コンタクトレス決済やセルフレジなどの非接触の決済インフラは日常的に使用されるようになり、Global Data社の調査によると、豪州はキャッシュレス社会への移行度を示すランキングで世界6位（2020年）となった。行政分野でも様々な取り組みが実施された。ニューサウスウェールズ州政府は独自アプリにQRコードによる施設入場記録や、経済刺激策のバウチャー機能、ワクチン接種証明書などの各種機能をタイムリーに追加し、住民も順応し国連の調査によると豪州は電子政府ランキングで7位（2022年）とデジタルリテラシーの高さも伺えた（詳細は筆者レポート参照¹）。

2021年後半から感染者数の減少に伴いコロナによる各種規制を解除されたことにより徐々に経済活動が活性化、2022年第1四半期の実質GDPは2020年同期比5.1%増となった。豪州が重要な留學生産業もコロナ禍で大打撃を受けたが、2022年の留學生数は約60万人と前年を上回り回復傾向にある。一方で労働力不足が問題となっている。政府はその解決に向け、移民の更なる受け入れを推し進めるため、ビザ発給件数の引き上げと審査緩和措置を行った。

2. コロナ禍での研修における取り組み

筆者が豪州に派遣された2021年当初はデルタ株の影響によって施設入場制限やロックダウンが行われた年であったが、規制緩和後の同年12月には当地観光事業者や政府関係者を招いて福岡県産酒と観光PRを行うレセプション（写真）と、当地飲食店5店舗における県産酒の試飲フェアを実施した。豪州の一人当たりの酒の消費量は世界平均より



（写真）レセプションでの豚骨ラーメン調理
実演（当地 IPPUDO 系列店にて）

¹ <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/148183.pdf>

多いが、ワインが好まれる傾向があり、日本酒はまだ浸透していない。フェア参加者からは「飲みやすく美味しい」など高評価を受けるとともに、梅酒等のリキュールに特に関心を示されるなど、今後の可能性を感じた。観光 PR では、レセプション会場にて食と酒を楽しんでもらいながら魅力を発信することで、複数の観光事業者から「知らなかった魅力を発見できた」との反響の声をいただいた。コロナ前の豪州人の都道府県別訪問率で本県は 21 位であったことから、知名度向上につながる取組みになったと思う。2022 年にはオーストラリアでの入国制限が撤廃され、本県は同年 8 月にシドニー福岡県人会と連携した国際人財育成事業として県内大学生等 10 名をシドニーに派遣。参加者たちは現地の日系企業計 12 社に訪問して現場学習やマーケティング体験を実施するとともに、県人会会員との交流も行うことで、海外で働くことについて肌で実感していただく機会になったと思う。

3. 本県のオーストラリアとの交流の可能性

今後も成長が見込まれる豪州と本県との交流について大きく三分野での可能性が考えられる。1 つ目は水素産業である。豪州は豊富な天然資源により経済発展を続けてきたが、世界的なネットゼロへの動きから環境配慮型の新エネルギーとして水素に着目し、輸出産業化に向けて政府が積極投資を続け、日本企業とのプロジェクトも多い。そうした中で水素に関する本県内の実証実験や大学等の研究開発などの取組が豪州の水素産業推進に寄与する可能性を持つ。

2 つ目は観光である。豪州人訪日観光客の支出額は世界一であり、2022 年には海外旅行先のウェブ検索結果で「日本」が 1 位となった。当事務所がイベントで一般の方々向けに観光 PR を行った際には、訪日旅行希望者はリピーターが多く、「2 回目以降はゴールデンルート（東京ー大阪間）以外に行きたい」という声が多かった。豪州人訪日旅行者の平均滞在日数は 13 日と長く、本県のみならず九州全体として訴求することで集客率を高められるだろう。

3 つ目は教育とスポーツである。豪州は戦後の経済関係などにより親日的な傾向にあり、10 万人あたりの日本語学習者数では世界 1 位である。時差は 1 時間と小さいことから、言語・文化交流を目的とした修学旅行やオンラインでの教育交流のハードルが低く、日本の学校交流先を探す豪州の学校も少なくない。また豪州は水泳やラグビーなどのスポーツが盛んであり、本県は 2022 年に福岡県ラグビーフットボール協会と NSW 州ラグビー協会の 3 者間で MOU を締結したところであり、今後も各種スポーツ交流等を実施する予定である。

各分野での交流をする際には、シドニー福岡県人会との連携も重要だ。同県人会は 100 名以上の加入者数を誇り、多種多様な業種の方々が加入しているため、連携先として幅広い可能性を秘めている。帰任後も当地で得たネットワークを活かし、更なる交流機会の創出に尽力したい。